

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00970

研究課題名（和文）芸娼妓紹介業と娼妓・芸妓の性と生についての実証的研究

研究課題名（英文）Empirical research on procurers and the sexuality and livelihood of licensed prostitutes and geisha

研究代表者

人見 佐知子（HITOMI, Sachiko）

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00457029

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、周旋業者・貸座敷業者が作成した経営史料といった一次史料を用いて、貸座敷業者の経営実態や前借金が容易に返済できないカラクリ、周旋方法などを公娼制度の時期的変化や地域的差異をふまえて具体的に分析した。また、娼妓の手紙から、性売女性の経験や女性の主体的営為の意味を、貸座敷業者・周旋業者・「家」との諸権力関係に注意しつつ考察し、近代日本の公娼制度の搾取構造と娼妓の主体性の内実を歴史具体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代日本の公娼制度下の性買売の実態を、貸座敷業者・周旋業者および娼妓・芸妓自身が作成した一次史料をもちいて、貸座敷経営の実態、周旋方法、前借金返済の仕組み、娼妓・芸妓の主体性の内実について、実証的に明らかにすることができた。業者による搾取の実態や女性の主体性の内実の解明は、現在の性買売や性搾取の問題、「セックスワーク」論を批判的に検討するうえで今日的意義をもつ。また、「慰安婦」問題に関して、「慰安婦」制度の歴史的前提である公娼制度の実態の詳細な解明は学術的に重要な意味をもつと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research investigates the movement of licensed prostitutes from one brothel to another and their method of repaying debts by analyzing primary sources, including letters written by prostitutes and business records kept by brothel owners and procurers. Through this analysis, my research sheds light on the exploitative nature of modern licensed prostitution and reexamines the perception of licensed prostitutes as autonomous actors within the system.

研究分野：女性史

キーワード：公娼制度 娼妓 芸妓 貸座敷 周旋業者 性売買 遊廓

1. 研究開始当初の背景

第一に、「遊廓社会」論の視角と方法への着目がある。近代日本の公娼制度についての研究は、女性史の領域で多く蓄積されてきた。他方で、近世都市史研究では、都市社会構造論の視点から「遊廓社会」論が提起されており、この遊廓社会論の視角と方法を近代の公娼制度・遊廓研究にも援用するかたちで、佐賀朝・吉田伸之編『シリーズ遊廓社会 2 近世から近代へ』(吉川弘文館、2014年)などの成果が公表され、注目を集めていた。とくに、性買売に利害関係をもつ多様な主体の具体的存在形態や諸主体間の支配、抵抗、せめぎ合いをはらむ権力関係の解明は、性買売がなぜ、どのように存続してきたかを明らかにするうえできわめて重要であると考えられた。また、比較類型史的観点から、公娼制度や性買売の実態について時期や地域の違いをふまえた個別研究の蓄積の必要が認識されるようになっていた。

しかしながら他方で、遊廓社会論に対しては、ジェンダー視点の欠如のために、当事者である女性(娼妓・芸妓)が所与とされ、女性の経験に対する関心が後景に退き、ジェンダーに起因する抑圧の解明に課題を残しているという批判があった。すなわち、女性の経験から公娼制度や遊廓の実態を明らかにするという課題を、研究開始当初の背景の第二点目としてあげることができる。

第三は、一次史料の「発掘」がある。近代日本の公娼制度や遊廓をめぐるそれまでの研究はおもに、廃娼運動家の史料や新聞・雑誌、ルポルタージュ、当時の社会調査や警察関係の史料に依拠してすすめられてきた。これらは、全体の傾向を把握するためにはすぐれているが、二次資料としての史料批判の問題にくわえて、個別の経営に分け入った実態がみえづらいこと、さらに、地域や時期に偏りがあることから、公娼制度の時期的変遷や遊廓・性買売の地域的特徴を明らかにするためには限界があった。それに対して、研究開始の前後から貸座敷の個別経営にかかわる一次史料の「発見」が相次ぎ、性買売の実態を地域に即して歴史具体的に明らかにする可能性が開けた。

以上から本研究は、「遊廓社会」論による社会構造分析の方法と女性史・ジェンダー史における女性の立場からの公娼制度・性買売研究の潮流を架橋し、一次史料から近代日本の公娼制度の実態を明らかにすることをめざしておこなわれた。

2. 研究の目的

本研究は、貸座敷業者や周旋業者の経営史料、性売女性の手紙といった一次史料の分析から、貸座敷業者・周旋業者・「家」といった性売女性(娼妓)をとりまく諸主体の存在形態について、性売女性との非対称な権力関係に注意しながら具体的に明らかにするとともに、前借金返済の仕組みなど近代公娼制度下で娼妓の人身を拘束し搾取する仕組みを地域的差異や時期的変化をふまえて実証的に解明すること、さらに性売女性の経験や女性たちの営為の意味を、明らかにした近代日本の公娼制度下の性買売管理・支配の歴史的特質と合わせて考察することを目指すものである。それらにより、近代日本の公娼制度下における性買売の実態を歴史具体的に解明することを目的とする。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するため、本研究では、貸座敷業者・周旋業者が作成した経営にかかわる史料や、娼妓・芸妓の手紙といった一次史料をひろく調査・収集し、関連資料とあわせて分析をくわえることで、近代日本の公娼制度下の性買売の実態を、当事者である女性の立場から明らかにすることを目指した。

具体的には、a 金沢市の周旋業者の史料(小原文書・近畿大学中央図書館所蔵)、b 宮城県若柳遊廓の貸座敷経営史料(阿部家文書・東北歴史博物館所蔵)、c 奈良県大和郡山市洞泉寺遊廓の貸座敷経営史料(大和郡山市所蔵)を分析対象とした。aは、周旋業者のもとに残された史料群であるが、史料群の相当部分を娼妓・芸妓の手紙が占める点に特徴があり、経営史料と合わせて分析することで、経営実態やその特徴を女性の経験をふまえて、女性の立場から明らかにできる可能性をもっていた。また、aが周旋実態における周旋業者と女性との局面を示す史料であるとすれば、bは、周旋業者からの手紙を多くふくむことから、周旋業者と貸座敷業者間の周旋実態を示す史料であり、それぞれ異なる局面から周旋実態を具体的に明らかにすることが期待された。cは、貸座敷業者の経営史料であることから、娼妓の存在形態や前借金の精算方法など貸座敷の経営実態を具体的に解明できる可能性をもっていた。

史料は、おもに撮影によって収集し、適宜研究協力者の協力を得て翻刻・データ整理を実施し、分析をおこなうこととした。成果の公表は、学会報告や論文によっておこなうこととした。

4. 研究成果

金沢市の周旋業者の史料を用いた研究では、周旋業者に住み替え（抱えられ先を替えること）の斡旋を依頼する娼妓の手紙から、娼妓自身の営為の意味を、近代公娼制度下の性買売管理の実態と合わせて検討した。その結果、娼妓自身の望みによる住み替えは、劣悪な環境で性を売ることを強いられていた娼妓がよりマシな境遇で生き抜くための主体的営為と位置づけられる一方で、娼妓の能動性が周旋業者や貸座敷業者に巧みに利用され、搾取の実態を隠蔽する役割さえ果たしていたことを論じた。また、「家」との関係や、前借金の慣行、梅毒などの性病の経験を、娼妓自身がどのように意味づけていたのかについても考察した。女性たちは、「家」のために犠牲になることに諦念の気持ちを抱き、借金が返せないのは自分の甲斐性のなさだと自身を責め、周旋業者や貸座敷業者に対しては恩義や感謝の気持ちを抱いているなど、搾取を認識することがきわめて困難な状況におかれていたことが見て取れた。

また、同史料を用いて、周旋業者の経営実態や周旋方法について、被紹介女性、周旋先、共同周旋人との関係などに注目して検討をくわえた。さらに、周旋人が利益をあげる仕組みについて、「芸娼妓紹介簿」や「金銭入覚帳」をもとに分析した。後者の史料からは、周旋人が被紹介女性やその家族に金銭を貸し付けて利子収入を得ていたこと、身売りや住み替えで得られる前借金が利子の返済に充てられていたことなどを明らかにすることができた。また、周旋業者は金銭貸し付けなどを通じて家族の生活に深く介入し、女性が個人の意思で周旋業者との関係を断ち切ること（ひいては廃業を決意すること）を困難にしていたことがうかがえた。これらは、一次史料を用いた周旋業者の研究としてはほぼ初めての成果といえる。

なお、娼妓の手紙と「芸娼妓紹介簿」については、国立歴史民俗博物館企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」において展示し、研究成果の一部として発信することができた。

宮城県若柳遊廓の貸座敷経営史料からは、貸座敷業者に宛てた周旋業者の手紙をもちいて、貸座敷業者と周旋業者のやり取りから周旋の実態を明らかにすることを目指した。その結果、住み替えにおいて娼妓の意思が前提にあったとしても、じっさいの住み替えの過程では娼妓の意思や意向はほとんど考慮されず、貸座敷業者と周旋業者および「家」とのあいだで利害調整がおこなわれていたことが明らかとなった。にもかかわらず、自身の利害を正当化するために周旋業者が住み替えにおける娼妓の意思を強調する場合があったことにも注目し、人身売買の事実を隠蔽するために娼妓の意思が都合よく利用されていたことを論じた。

奈良県大和郡山市洞泉寺遊廓の貸座敷経営史料を用いた研究では、前借金精算の仕組みを具体的に解明するとともに、1920年代の内務省主導の公娼制度改革や待遇改善の内実を娼妓の側から考察し、娼妓がおかれていた抑圧の実態や支配の構造について検討した。前借金精算の仕組みについては、これまでよく知られていた「歩合制」とは異なり、洞泉寺遊廓では「年期制」と称される精算方法がとられていたことを指摘するとともに、「年期制」における精算の仕組みを史料から詳細に解明した。また、待遇改善や公娼制度改革の過程で導入された賞与金・積立金・小遣い銭といった制度の内実を分析し、それらが娼妓の境遇を改善したとはいえないこと、むしろ、賞与金・積立金といった修辭が娼妓に対する支配や管理を巧妙化し、公娼制度の維持・存続につながったことを論じた。

また、この間の遊廓・性買売研究の進展をふまえて、研究動向を整理し、成果と課題および今後の展望をまとめた研究報告をおこなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 866
2. 論文標題 娼妓と近代公娼制度：一次史料からみる娼妓の住み替えと廃業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 251
2. 論文標題 娼妓の前借金返済はなぜ困難だったのか：大和郡山洞泉寺遊廓を事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 31-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 34
2. 論文標題 娼妓からみた近代日本の公娼制度：周旋業者・借金・梅毒	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 民俗文化	6. 最初と最後の頁 187-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 24
2. 論文標題 妓楼遺構の保存と活用をめぐる一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知	6. 最初と最後の頁 38-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 410
2. 論文標題 志縁に連なる(書評 もろさわようこ著『新編 おんなの戦後史』)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 3543
2. 論文標題 書評 林博史著『帝国主義国の軍隊と性：売春規制と軍用性的施設』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 250
2. 論文標題 二〇二一年五月例会に参加して：議論のまとめと若干の私見(二〇二一年五月例会 ジェンダーの視点から日本史を展示する意義と可能性：歴博企画展示「性差の日本史」を素材に)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 1月8日
2. 論文標題 書評 シンバク・ジニョン著『性売買のブラックホール』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 しんぶん赤旗	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 3473
2. 論文標題 書評 ボムナル著『道一つ越えたら崖っぷち』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 33
2. 論文標題 娼妓の住み替えをめぐる一考察：娼妓の手紙から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民俗文化	6. 最初と最後の頁 173-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 54
2. 論文標題 中央図書館所蔵「金沢遊郭芸娼妓関係文書」について：近代公娼制度下の娼妓と周旋業者	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 香散見草	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 859
2. 論文標題 娼妓と近代公娼制度：一次史料にみる娼妓の住み替えと廃業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 53-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 金沢の芸娼妓紹介人と女性たち
3. 学会等名 第63回北陸史学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 一次史料にもとづく近代日本の遊廓社会史研究の現状と課題
3. 学会等名 第三次遊廓科研「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」（基盤研究B）総括セミナー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 娼妓の前借金返済はなぜ困難だったのか：一次史料にみる娼妓と近代公娼制度
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会10月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 娼妓と近代公娼制度：一次史料からみる娼妓の住み替えと廃業
3. 学会等名 歴史科学協議会（全国）第55回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 コメント 近代日本の公娼制度・遊廓研究と一次史料
3. 学会等名 シンポジウム 幕末から近代における性の売買（中部大学大学院国際人間学研究科・人文学部歴史地理学会主催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 遊廓と娼妓：トラウマの視点から
3. 学会等名 甲南大学人間科学研究所研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 コメント 近大公娼制度研究の視座から
3. 学会等名 植民地遊廓科研セミナー「釜山における日本式遊廓の導入と定着」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 国立歴史民俗博物館、「性差の日本史」展示プロジェクト	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社インターナショナル	5. 総ページ数 224
3. 書名 新書版 性差の日本史	

1. 著者名 女性国際戦犯法廷20周年実行委員会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 194
3. 書名 女性国際戦犯法廷20年 判決/証言をどう活かすか 日本軍性奴隷制を裁く 20周年国際シンポジウムの記録(担当: コラム「記憶に向き合う」)	

1. 著者名 総合女性史学会編(服藤早苗・伊集院葉子・日高慎・高松百香・小西洋子・中臺希実・人見佐知子・吉良智子・宮下美砂子・友野清文・柳原恵・加藤千香子・三橋順子・古橋綾執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 338
3. 書名 『ジェンダー分析で学ぶ 女性史入門』(担当「遊廓と遊女」119-141頁)	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 一般財団法人歴史民俗博物館振興会	5. 総ページ数 320
3. 書名 『企画展示 性差の日本史』(担当「性を買う男たち」「娼妓 「自由意思」という建て前のもとで」「娼妓たちの苦闘 自由廃業と住替え」「八日市新地」「娼妓に賞与金? 「待遇改善」の限界」 212-214頁、216-224頁)	

[産業財産権]

[その他]

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

[国際研究集会] 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------